

芝山町 未来への指針

SHIBAYAMA vision 2016

施政方針

基本計画

予算概要

3月議会

平成28年度 施政方針

3月議会定例会の開会初日。冒頭のあいさつに立った相川町長は、平成28年度に向けた所信を表明した。



芝山町長 相川 勝重

(3月21日 鹿児島県奄美大島にて撮影)

国勢調査

平成27年国勢調査の速報値が発表されました。全国的に都市部を除いて、人口減少、過疎化が進んでいるという結果が出ています。千葉県においても、東葛地域は人口増ですが、それ以外の市町村は人口が大きく減少しています。成田空港周辺では、成田市が若干増加し、それ以外の市町村は減少という結果です。もちろん芝山町も例外ではありません。

私どもも行政といたしましては、成田空港を活用した地域づくりや都市づくりを本格化させ、さらなる人口減少に歯止めをかけ

なければならぬと考えております。

まち・ひと・しごと創生 総合戦略

町は、国が示す「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、町民の方々などと一緒「芝山町人口ビジョン及び芝山町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定を進めてきました。これは、地方から都市部への人口流出に歯止めをかけ、仕事の創生、人の創生を行い、町の創生を実現するための第1歩です。そしてこの1歩から人口減少を克服し、若い世代が地域の中で

安全・安心で豊かな生活を将来にわたって送れるようにしなければなりません。そのため、地域の特性を生かした町づくりの取り組みに、一層の力を注いでまいりたいと存じます。

農業・空港・観光の「3本の矢」

① 農業

芝山町は古くより、農業を基幹産業として発展してきた町です。水田と畑のバランスが良く、米づくりと関東ローム層の肥沃な大地での畑作が盛んに行われてきました。

このような中、戦後初の農業政策の大改革が4月1日より始

まります。具体的に申し上げると、一つ目は農業協同組合法の改正、二つ目は農業委員会制度の改革、三つ目は農地法の改正です。この大改革によって、これからの農業がどこへ向かっていくのか、注視していきたいと思えます。

②空港

成田空港建設が昭和41年に閣議決定されてから、50年という節目の年を迎えました。この間、さまざまな課題があったことはご存知のとおりです。しかしながら、成田空港は昭和53年の開港以来、着実に発展を遂げてきました。

空港の持つデメリットを克服するため、私たちは試行錯誤を重ねながら対策を進めてまいりました。しかし、騒音下に暮らす住民の方々からすれば、まだまだ不十分と言えます。

現在、国やNAAからは「成田空港第3滑走路」「平行滑走路の北伸」「飛行制限時間の緩和」の3点が提案されています。私は成田空港の安定運用と騒音下対策の画期的な充実のためにも、空港周辺の公平な発展、固定資産税のさらなる補助、一層の移転対策、空調維持のためのさ

らなる補助、新たな財源の確保など、具体的な対策が必要不可欠だと認識しております。空港と地域が共に発展するためにも、地域が受け入れやすい環境を整えていかなければなりません。

今後のスケジュールですが、近々に成田空港圏自治体連絡協議会が開催され、第42回成田空港騒音対策委員会、第3回四者協議会を開催し、その結果を地域の皆さんへ具体的にお示しすることになるものと存じます。

③観光

国は、訪日外国人観光客の増加を、21世紀の日本の成長戦略の柱としました。平成15年に外国人旅行者の訪日促進運動「ビジット・ジャパンキャンペーン」が開始されたとき、訪日客は520万人でした。それが10年後の平成26年には1,341万人を数えました。そして昨年は1,903万人に達し、今年は2,000万人に達すると予想されています。日本の良さが世界に認知され、この数はますます増え続けるものと思われま

芝山町には、歴史ある芝山仁王尊や殿塚・姫塚があります。また空港周辺には航空科学博物館や空の駅、ひこうきの丘など

を総称したスカイパークしばやまがあります。これらを世界の人々に紹介し、本町を広くアピールしてまいりたいと存じます。

少子・高齢化の課題

芝山町では少子高齢化が極めて健在化しています。このようなか、共に支えあう「福祉社会」の実現は大変重要だと認識しております。福祉とは、全ての人が常に健康で文化的な生活を営む権利であり、社会全体でそれを保障することです。それは豊かな社会づくりの基礎でもあります。

しかし私は、福祉という言葉の意味を、もう少しシンプルに「生きがい」と訳しています。もちろん金や物も必要不可欠ですが、一人一人が生きがいを感

お年寄りも若い人も、皆が「共に生きていく」という実感を持つことだと思います。生きがいを見つけやすい環境をつくること、私たちに求められている

のではないかと感じております。今日の日本は世界でも稀な長寿社会を築いてきました。元気なお年寄りは知恵袋であり、経験という素晴らしい中身を持ち合わせています。これは国の財産であり、地域の宝です。反面、少子化は大きな課題です。子どもたちが少ないということは、町の勢いや経済、町づくりに大きな影響があります。少子化を食い止めるためには、子どもを産み、育てやすい環境の整備は不可欠です。

具体的施策として、子ども医療費の一部無料化、出産祝い金制度、三世代同居等支援事業を行っております。また子育て支援センターの開設、学童保育の時間延長なども進めてまいりました。さらには、給食費第1子半額についても当初予算でお願いさせていただきました。これからも子育て中の家庭をしっかりと支え、応援してまいります。

私たちは、皆さんのお力をお借りしながら、全ての人が生き生きと暮らせる住み良い社会、皆が幸せに暮らせる社会を目指して町づくりに取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。